

平成 31 年度全国学力・学習状況調査の甲府市における調査結果のポイント

甲府市教育委員会学校教育課

文部科学省は、本年 4 月 18 日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の結果を公表しました。

この調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や児童生徒の生活状況の実態等を明らかにすることにより、各学校における児童生徒への指導内容の充実や指導方法の改善、日々の生徒指導等に役立てることを目的としております。

各学校におきましては、自校の調査結果を分析し、課題等を明らかにした上で、指導方法の改善等に役立てながら授業を行っております。また、分析結果につきましては、学校便りなどを通して保護者や地域住民の皆様にお知らせするとともに、各学校のホームページにも掲載する予定です。

なお、各学校では、調査に参加した児童生徒並びにその保護者に対しまして、個別懇談等を通して、個人結果票をもとに、個々の課題や今後の努力点を丁寧に説明し、課題等を共有しながら学力向上に向けて家庭との連携を図るように努めています。

甲府市教育委員会としましても、市内各小中学校の調査結果を分析、検討し、本市としての全体的な状況や課題等を次のとおりまとめ、今後、各小中学校への指導助言に役立てて参ります。



【お問い合わせ先】

〒400-8585

甲府市丸の内 1-18-1

甲府市教育委員会 学校教育課

電話 055-223-7321 FAX 055-235-5648

1 調査の本市の概要

(1) 実施日 平成31年4月18日(木)

(2) 調査内容

○実施学年 小学校第6学年, 中学校第3学年

○調査内容

[教科に関する調査]

小学校・・・国語, 算数 中学校・・・国語, 数学及び英語

◇出題内容

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や, 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等。

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や, 様々な問題解決のための構想を立て, 実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では, 上記①と②を一体的に問う。出題形式は, 国語及び算数・数学においては, 記述式の問題を一定割合で導入する。英語においては, 「聞くこと」, 「読むこと」, 「話すこと」, 「書くこと」に関する問題を出題し, 記述式の問題を一定割合で導入するとともに, 「話すこと」に関する問題の回答は, 原則として口述式によるものとする。

[生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査]

◇児童生徒に対する調査

・学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する質問紙調査

◇学校に対する調査

・指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

(3) 参加状況

校種	参加学校数	参加学年・参加人数
小学校	25校1分校	6年生・1320人
中学校	11校1分校	3年生・1271人

2 教科に関する調査の本市の結果について

(1) 全体の結果 【平均正答率で見た甲府市の状況 : 全国・山梨県との比較】

		小学校(6年生)		中学校(3年生)		
		国語	算数	国語	数学	英語
全国		63.8	66.6	72.8	59.8	56.0
山梨県		62	66	75	60	55
甲府市	国との比較	△	△	○	△	○
	県との比較	△	△	△	△	○

※平成29年度から、県および市・各学校等の平均正答率は整数で発表されることとなった

※表の見方：○は同じかあるいは上回っている、△は下回っている

◇全体の概要

○本年度から従来のA問題・B問題が一体的に問われることになった。

教科に関する調査の平均正答率は、小学校・中学校ともすべての教科（国語，算数・数学，英語）において、全国と比べて－2.8%から＋1.2%の範囲内（昨年度－0.7%から＋1.8%）にある。

〔小学校〕

・国語，算数とも，全国及び県平均正答率を下回っている。

〔中学校〕

・国語は全国平均を上回っているが，県平均は下回った。数学は全国平均及び県平均を下回っている。今年度初めて実施された英語は，全国と同程度。県平均は上回っている。

（４）各教科の結果

■ 小学校国語

【全国の平均正答率より3ポイント以上高いもの】

該当なし

【全国の平均正答率より3ポイント以上低いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
1四(1) ア	文の中で漢字を使う (たいしょう)	学年別漢字配当表に表されている漢字を文の中で正しく使う	5・6年 文字に関する事項	H29A ⁷ (1)
1四(1) イ	文の中で漢字を使う (かぎらず)	学年別漢字配当表に表されている漢字を文の中で正しく使う	5・6年 文字に関する事項	H29A ⁷ (1)
1四(1) ウ	文の中で漢字を使う (かんしん)	学年別漢字配当表に表されている漢字を文の中で正しく使う	5・6年 文字に関する事項	H29A ⁷ (1)
2ー(2)	疑問に思ったことに対する答えになるように考えて，条件に合わせて書く	目的に応じて，文章の内容を的確に押さえ，自分の考えを明確にしながらか読む	5・6年 読むこと	H27A ⁵ 一 H27A ⁵ 二 H27B ² 二 H28A ⁵ H28B ³ 三 H30B ³ 二

3三	話し手の思いや考えに着目して、心に残ったことを、条件に合わせて書く	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをもとめる	5・6年 話すこと 聞くこと	H24B ² 二 H26B ¹ 三 H28B ¹ 三 H30B ¹ 三
3四	ことわざの使い方の例として、適切なものを選択する	ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる	3・4年 伝統的な言語文化に関する事項	H24A ⁸ H25A ² 一 H25A ² 二 H26A ² 一 H26A ² 二 H29A ⁵ ア H29A ⁵ イ H30A ⁶

【正答率が40%に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
1三	「調査の内容と結果」で分かったことをまとめて、条件に合わせて書く	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く	5・6年 書くこと	H25B ² 一 H27B ¹ 三 H29B ² 三 H30B ² 二
1四(1) ア	文の中で漢字を使う (たいしょう)	学年別漢字配当表に表されている漢字を文の中で正しく使う	5・6年 文字に関する事項	H29A ⁷ (1)
1四(1) ウ	文の中で漢字を使う (かんしん)	学年別漢字配当表に表されている漢字を文の中で正しく使う	5・6年 文字に関する事項	H29A ⁷ (1)

【本市の傾向・課題】

- 「文の中で漢字を使う」ことに課題がある。
 - ・「文の中で漢字を使う」設問については、3問中3問が全国平均正答率を下回り、2問が40%に満たないことから、今後も粘り強い取組が必要である。
- 「書くこと」に関わる部分で正答率が低い。
 - ・目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことには課題がある。
 - ・考えの根拠となる情報や、まとめる際の条件に合わせた文章を書くことに課題がある。

【改善のための方策】

○漢字を読んだり書いたりする機会を計画的に設定する指導の充実

- ・漢字練習，漢字の構成，同音異義語などの学習を行う。また，ノートをとる時や学習感想等を書く時，連絡帳等に文や文章を書く際など，漢字を正しく使うように指導する。
- ・平成31年度全国学力・学習状況調査報告書小学校国語35ページ「学習指導に当たって」を参照。

○目的や意図に応じ，複数の資料から適切な内容を取り上げて，詳しく書く指導の充実

- ・自分の考えたことや伝えたいことが相手に十分伝わるように書くためには，複数の資料から情報を得て，詳しく書くことが必要となる場合がある。その際，得られた情報の中から目的や意図に応じて適切な内容を選択したり，関連付けて捉えたりすることが大切になる。また，情報の何をどのように取り上げて，詳しく書けば効果的であるかを整理して書くことができるように指導することが大切である。
- ・自分の考えを可視化したり，思考ツール（比較・分類・関連付け・構造化等）などを活用したりしながら，集めた資料をまとめ，考えを文章や図に表す機会を設けることが大切である。また，文章をつくる際には，「構成の検討」「書き表し方の工夫」など，推敲する段階で交流する場を設定し，友達の意見や考えを基に，自分の考えを振り返らせる場面をつくることも効果的である。

■ 小学校算数

【全国の平均正答率より3ポイント以上高いもの】

該当なし

【全国の平均正答率より3ポイント以上低いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
2 (4)	洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるため $6+0.5\times 2$ を計算する	加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる	4年 数と計算 数量関係	H19A ¹ (7) H29A ² (3)
3 (4)	$1800\div 6$ は，何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ	示された除法の式の意味を理解している	3年 数量関係 5年 数と計算	H25B ² (1) H28B ³ (1)
4 (2)	何秒後にゴンドラに乗ることができるのかを求め式を書く	示された場面において，複数の数量から必要な数量を選び，立式することができる	3年 数と計算	H19B ⁵ (3) H20B ² (2) H29B ² (1)
4 (3)	残り7ポール分進むのにかかる時間の求め方	場面の状況から，単位量当たりの大きさを	5年 量と測定	H19B ⁵ (3) H20B ² (2)

	と答えを記述し、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを判断する	基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる	数量関係	H29B2(1)
--	-------------------------------------	---------------------------	------	----------

【正答率が40%に満たないもの】

該当なし

【本市の傾向・課題】

- 全国及び県の平均正答率とほぼ同等の結果となった。また、全国及び県と同様に、無解答率が高い設問もある。
- 減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算についてまとめると、どのようになるのかを書く問題に関して、全国及び県と同様、正答率が低い。
- 「量と測定」の領域では、「数学的な考え方」に課題がある。「図形と式とを関連付け、筋道を立てて考察すること」に関する問題での正答率が低い。
- 「数と計算」の領域では、「数量や図形についての技能」や「数学的な考え方」に課題がある。「四則の混合した整数と小数の計算」「示された除法の式の意味を理解すること」「複数の情報の中から必要な数量を選択し、立式すること」に関する問題での正答率が低い。
- 「数量関係」の領域では、数学的な考え方に課題がある。「場面の状況を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、得られた結果から判断すること」に関する問題での正答率が低い。

【改善のための方策】

○「数と計算」に関する学習指導の充実

- ・問題解決の場面において、数量の関係を図や数直線などに表す活動を取り入れていく。数量の関係を的確に捉えられるよう指導していくことが大切である。
- ・四則の混合した式の計算や四則に関して成り立つ性質について、十分に習熟させるようにする。
- ・小数とその加法及び減法について理解を深めるように指導する。
- ・小数の乗法と除法の意味について理解させ、それらを正しく用いることができるように繰り返し取り組ませる。

○「数量関係」に関する学習指導の充実

- ・答えを求めるまでに複数の段階がある問題の解決の場面では、自力解決の場面を大切にし、考えをもたせることが大切である。考えをもたせるために、図をかいたり具体物を操作したりする機会を設ける。
- ・日常生活の中で生じた問題の解決のために、多くの情報の中から必要な数量を見いだすことができるよう指導する。
- ・ともなって変わる2つの数量を見いだしたり、複数の情報から必要な数量を選択して立式したりすることができるように指導する。
- ・示された場面の状況の変化に応じて、単位量当たりの大きさを基に、数学的に表現・処理し、得られた結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるように指導する。

■ 中学校国語

【全国平均正答率より3ポイント以上高いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
2二	話合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する	相手に分かりやすく伝わる表現について理解する	1年 話すこと・聞くこと	

【全国平均正答率より3ポイント以上低いもの】

該当なし

【正答率が40%に満たないもの】

該当なし

【本市の傾向・課題】

- 本市の平均正答率は、すべての設問において全国平均を上回り、「話すこと・聞くこと」の領域では、特に優れた成果を残している。
- 課題としては、1四「封筒の書き方を理解して書く」問題、1二「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」問題の正答率が比較的低いことが挙げられる。

【改善のための方策】

○言語についての知識・技能の確実な定着を図る指導の充実

- ・封筒の書き方についての理解を深めるためには、相手の氏名に敬称を付け中央に大きく書くこと、住所は右側に氏名よりやや小さく書くことを捉える必要がある。手紙の形式に込められた相手への敬意について、実生活と結びつけながら考えさせることも大切である。

○読む能力の向上を図る指導の充実

- ・文章を読んで内容を捉えるためには、文章の内容や構造を理解したり、その文章の特徴を把握したりしながら、目的や必要に応じて情報を過不足なく選択し整理することが大切である。指導にあたっては、生徒に、根拠や意味を考えさせたり、友だちの考えをもとに自分の考えを振り返らせたりすることが必要となってくる。また、自分の考えを文章や図で表現させる場面を設けることも求められる。

■ 中学校数学

【全国平均正答率より3ポイント以上高いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
8(2)	「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考え方が適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	1年 資料の活用	

【全国の平均正答率より3ポイント以上低いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2年 数と式	H19A ³ (4) H20A ³ (4) H21A ³ (4) H22A ³ (3) H23A ³ (4) H24A ³ (2) H26A ³ (4) H27A ³ (4) H29A ³ (4) H30A ³ (3)
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の出る確率を求める	簡単な場合について確率を求めることができる	2年 資料の活用	H20A ¹⁵ (2) H21A ¹³ (2) H23A ¹³ (1) H24A ¹⁴ (2) H25A ¹⁵ (2) H26A ¹⁴ (2) H28A ¹³ (2) H29A ¹⁵ (2) H30A ¹⁵ (2)
6(1)	冷蔵庫Aの使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、点Pのy座標の差が表すものを選ぶ	グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈することができる	2年 関数	

【正答率が40%に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
6(1)	冷蔵庫Aの使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、点Pのy座標の差が表すものを選ぶ	グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈することができる	2年 関数	
6(2)	冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	2年 関数	H28B ³ (3)

【本市の傾向・課題】

○全国平均正答率とほぼ同等の結果となっている。また、ほとんどの設問で無解答率が全国より低く、粘り強く取り組む姿勢が見受けられる。しかし、「関数」の領域において正答率が50%を下回っていること、「数学的な技能」の観点において全国との差が大きいことなどが課題である。

【改善のための方策】

○解答類型の分析

・正答率のみに着目せず解答類型を分析することで、生徒がどこでつまづいたかを把握し、授業改善に生かす。

例) ⑤ 2枚の10円硬貨を投げる問題（正解は1/4）は、教科書では1/3という誤答を取り上げた指導内容が組まれているが、今回の調査では1/2と解答した生徒の割合の方が高くなっている。

○基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図る指導の充実

・基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るため、学習した内容の意味の理解や実生活との関連を大切にしながら、生徒の実態に即したきめ細かな指導を繰り返し行う。

○自分の考えを文章にまとめる指導、他者に説明する指導の充実

・問題解決のため、必要な条件や資料の傾向を的確に捉えて筋道を立てて考え、数学的な表現を用いて説明できるよう、生徒同士の学び合いを含めた多様な学習活動を取り入れる。また、生徒の表現のよさを認めつつ、「事柄・事実の説明」では前提と結論を、「方法・手順の説明」では用いるものと用い方を、「理由の説明」では根拠と成り立つ事柄を明確にして説明ができるよう繰り返し指導を行う。

■ 中学校英語

【全国平均正答率より3ポイント以上高いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
2	イギリスと日本の類似点や相違点についてのスピーチを聞いて、話の展開に合わせて示す絵を並び替える	まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる		
9(1)②	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	文の中で適切に接続詞を用いることができる		

【全国平均正答率より3ポイント以上低いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
9(3)①	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる	1年 代名詞(3人称)	

【正答率が40%に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
4	来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く	聞いて把握した内容について、適切に応じることができる		
7	チンパンジーに関する説明文とその前後にある対話を読んで、書き手が最も伝えたい内容を選択する	まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる		
8	食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く	書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる		
9 (2) ②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く	一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる	1年 不規則動詞の過去形	
9 (3) ②	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる	1年 3人称単数現在時制の肯定文	
9 (3) ③	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができる	1年 3人称単数現在時制の否定文	
10	学校を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く	与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる		

【本市の傾向・課題】

- 本市の平均正答率は、全国平均とほぼ同程度である。
- 「聞くこと」「読むこと」の領域の中でも、日常的な話題について話されたことや書かれたものを理解したり、まとまりのある英語を聞いたり読んだりして、概要や要点をつかんだりすることは概ね良好である。
- 「書くこと」については正答率が低い。とくに、社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことをもとに、自分の考えや意見を書くことに課題がある。また、過去時制や3人称単数現在時制などの「動詞の活用」についても正答率が低い。

【改善のための方策】

○書く力を向上させる指導について

- ・普段の授業から、Small Talk 等の言語活動（自分の考えや気持ちをお互い伝え合う活動）を意図的に多く仕組む。さらに、ペアでやり取りしたことを書く活動につなげる。
- ・言語材料のパターンプラクティスに終始せず、その言語材料を用いて、自分の思いや考えを書く活動を頻繁に取り入れる。
- ・教科書の説明文や社会問題を扱った単元を読んだ後に、そのことについて「書き手の主張」を数文でまとめさせたり、「自分がどう思うのか（感想）」や「自分は何ができるか」について2～3文程度の英語で表現させたりする。その際、自分の意見を整理しやすいようマッピングなどを活用すると効果的である。また、I think や I agree などの自分の意見を述べるために必要な表現や because などの接続詞を適切に用いることを合わせて指導する。

○「動詞の活用」に関する指導について

- ・言語材料を使う「場面」を意識して指導する。例えば、「過去形」であれば、「日記」や「思い出を語る場面」で用いる表現であること、「3人称単数現在形」であれば、「他者を紹介する場面」で用いる表現であるということを理解させ、その言語活動をスパイラルに取り扱う。
- ・絵や写真の様子を表現したりする言語活動を取り入れることで、I, you 以外の主語（he, she, it, 無生物主語等）を用いて客観的に事実を書く機会を設ける。
- ・言語材料とそれを使う「場面」がリンクするように、例えば小学校で既習の言語材料については、小学校の教材を効果的に使用するなど、既習の知識と関連付けて繰り返し指導する。

（3）無解答率について

校種ごと、教科ごとに無解答率をまとめると次の通りである。

＜無解答率が全国よりも高い設問の数＞

※全国よりも無解答率が高い設問の数／全設問数

全国より無解答率が高かった設問数						
小学校	H30 年度	国語 A	国語 B	算数・数学 A	算数・数学 B	理科
		7問／12問中	0問／8問中	4問／14問中	1問／10問中	1問／16問中
	H31 年度	国語		算数		
11問／14問中		2問／14問中				
中学校	H30 年度	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
		13問／32問中	2問／9問中	10問／36問中	0問／14問中	2問／27問中
	H31 年度	国語		数学		英語
2問／10問中		1問／16問中		2問／21問中		

【本市の傾向と課題】

○昨年度との比較の視点から

- ・小学校，中学校とも，A問題とB問題の区分がなくなったので，昨年度と単純には比較はできない。

○全国との比較の視点から

- ・小学校国語で無解答率が全国平均を上回った問題が多い。小学校では最大で6.5%無解答率が全国平均を上回っている。
- ・中学校は，ほとんどの設問で無解答率が全国平均を下回っている。全国との差は，中学校で最大で0.3ポイント。粘り強く解答した様子がうかがえる。

○無解答率そのものの視点から

- ・小学校では，国語において無解答率が10%を越えている設問は5問あり，短答式や記述式の問題であった。算数については無解答率が10%を越えている設問はなかった。
- ・中学校では，数学で無解答率が10%を超えているものが3問，英語も2問ある。英語を聞いたり読んだりして英文で答える記述式の設問で無解答率が高い。

【改善のための方策】

- ・国語の記述式の問題で無解答率が高い問題がある。「言葉や文を取り上げる範囲」や「表現の仕方」「文字数」などの条件に合わせた文章を書くことに課題がある。総合的な学習の時間での発表会に向け，集めた資料をまとめて文章にするなど，自分の考えを文章や図に表す機会をつくる。その際，それを推敲する段階で友達と交流をする場を設定し，自分の考えが伝わる文章になっているかなどについてお互いに確認させる。そうすることで書き上げる力が伸びていくと考えられる。

調査結果を踏まえた授業改善の取組

※ **まずは、先生方が調査問題を解きましょう。問題を解いた後には・・・。**

- ①分類の各項目について結果を見ます。
- ②正答数分布グラフの分布の形状から、児童生徒の解答状況を把握します。

1 課題のある設問

- ③全国平均や県平均との差が大きい設問（5ポイント以上差が開いているもの）、正答率の低い設問、無解答率の高い設問に着目します。

2 反応率の高い誤答

- ④解答類型の反応率から誤答の状況（児童生徒はどこでつまづいているのか）をつかみます。

問題番号	問題の概要	解答類型									無解答
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	
7 (1)	円周率を求める式として正しいものを選ぶ	5.3	37.8	<u>39.4</u>	14.4					0.2	2.9
		5.4	37.0	<u>41.6</u>	12.6					0.2	3.2
7 (2)	円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるかを選ぶ	<u>54.8</u>	30.2	5.1	6.0					0.6	3.3
		<u>55.6</u>	28.0	5.6	6.6					0.6	3.6

類型2が37.8%で誤答の反応率が高い

算数

1段目：山梨県（公立）の割合 2段目：全国（公立）の割合

「解答類型」

一人一人の児童生徒の具体的な解答状況を把握することができるよう、設定する条件などに即して解答を分類、整理するためのもの。

「解答類型ごとの反応率」

各設問の解答類型別の反応率を見ることで、誤答に目を向け授業改善の視点を探ることができる。

正誤だけではなく、一人一人の誤答の状況や誤答の割合が高い類型に注目することで、児童生徒がどんなことにつまづいているのかが見える。さらに、課題の質を吟味することにより、学習指導の改善・充実を図ることができる。

3 誤答から児童生徒の実態をつかむ

- ⑤誤答の原因（どこに課題があるのか）を考えます。

4 児童生徒の実態を踏まえて授業をつくる

- ⑥対象学年だけでなく、それぞれの学年で取り組むべきことを明らかにします。

- ⑦「結果と授業改善のポイント」や「なぜ自己採点をするのか」「教科・領域を問わず年間を通じ

て意識したい授業改善の視点」「国の調査資料（解説資料、報告書、授業アイデア例等）を参考にして、指導改善・充実を図りましょう。

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会【説明資料】より

「国立教育政策研究所HP」<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/setsumeikai/index.html>

今日中に各学校へ「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 報告書」が送付されます。その中には、次のとおり設問ごとの解答類型と反応率、学習指導に当たって参考になる例などが示されていますので、ぜひご活用ください。

報告書における中学校数学の特徴について

＜単一の設定問とした問題＞

数学3 平面図形

3 下の図で、 $\triangle DEF$ は、 $\triangle ABC$ を矢印の示す方向に平行移動したものである。 $\triangle DEF$ は、 $\triangle ABC$ を矢印の示す方向に何mm平行移動したものであるか。その移動の距離を求めなさい。

基礎的・基本的な知識及び技能に関する問題として、本調査の分析結果に基づいて考えられる学習指導について記載している。

出題の趣旨

- 図形の性質を考察する場面において、次のことができるかどうかをみる。
- 図形の移動の性質を的確に捉えること
- 平行移動の意味を理解していること

図形の性質を考察する場面では、移動前と移動後の2つの図形の関係に着目して、図形の移動の特徴を的確に捉えることが大切である。

本問題は、平行移動の意味を理解しているかどうかをみる問題である。平行移動は、図形

本問についての知識及び技能が、問題解決をしていく過程でどのように用いられているかの局面を想定し、問題解決することの例として記載をしている。

単一の設定問とした問題1～5の「学習指導に当たって」は、今後の学習において活用される基礎的・基本的な知識及び技能や、その知識及び技能が、生徒が問題解決をしていく過程でどのように用いられているかを出題しているため、項を2つ記載するものである。

1. 解答類型と反応率

取組番号	解答類型	反応率 (%)	正答
5	1 2 と解答しているもの	83.9	○
	2 4 と解答しているもの	8.5	
	3 10 と解答しているもの	1.6	
	99 上記以外の解答	5.4	
	0 無解答	0.7	

2. 分析結果と課題

- 正答率は83.9%であり、平行移動の意味を理解していると考えられる。
- 解答類型2と、解答類型3の反応率の合計は10.1%であり、移動前の図形 $\triangle ABC$ と移動後の図形 $\triangle DEF$ の対応する点を正しく捉えることができず、線分CEや線分BFの長さを移動の距離として求めた生徒がいると考えられる。

3. 学習指導に当たって

- 移動前と移動後の図形を比較して2つの図形の関係を誘い取ることができるようにする
図形の移動について考察する際に、移動前と移動後の図形を比較する機会を設け、対応する頂点や辺の位置関係などを読み取ることができるよう指導することが大切である。
本問を使って授業を行う際には、 $\triangle ABC$ と、その $\triangle ABC$ を矢印の示す方向に平行移動させた $\triangle DEF$ において、移動前と移動後の2つの図形に着目して、それらの図形の性質や関係を見だし、図形の平行移動について考察する基盤を取り入れることが考えられる。その際、図形を構成している点A、B、Cに対応する点がそれぞれ点D、E、Fであることを捉え、線分AD、BE、CFの長さに着目し、それらの長さがすべて等しいことから、対応する点が一定の距離だけ移動していることを確認する場面を設定することが考えられる。

- 日常の事象の特徴を、図形の移動を用いて的確に捉えることができるようにする
日常の事象を図形の形や大きさ、構成要素や位置関係に着目して観察することで、図形の性質や関係を用いて事象の特徴をより的確に捉えることができるように指導することが大切である。
例えば、平成29年度【中学校】数学科目「万華鏡」で取り上げたように、万華鏡の中をのぞいたときに見られる模様は移動の性質を見だし、美しい万華鏡の模様にはどのような特徴があるかを考察する場面を設定することが考えられる。その際、万華鏡の模様を観察するときに見られる模様が互換な図形を敷き詰めてできていると捉えるなどして、数学の舞台にのせて考察しようとするのが大切である。その上で、敷き詰められた図形間の関係について、図形ごとのよりな移動で説明できそうかなどを振り返り、万華鏡の模様の特徴について数学的に考察することが大切である。
(参照)「平成29年度【中学校】授業アイデア例」P.9～P.10

【平成31年度（令和元年度）調査問題から】

12

3 質問紙調査の本市の結果について

(1) 児童生徒質問紙調査の特徴

① 小学校【児童質問紙調査】

■【全国の平均より3ポイント以上高いもの】

No.	質問項目	全国との差
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	3.3
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	3.0
6	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	4.3
7	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	3.6
8	将来の夢や目標を持っていますか	3.5
10	難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか	5.0
11	学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか	4.2
14	人が困っているときは、進んで助けていますか	3.9
17	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	5.6
19	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり30分以上、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	8.9
20	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館に週に1回以上行きますか	5.8
21	読書は好きですか	6.5
22	新聞を読んでいますか	3.4
23	今住んでいる地域の行事に参加していますか	5.3
24	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	10.0
25	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか	8.1
26	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか	6.6
27	5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTを週1回以上使用しましたか	14.8
30	授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか	5.5
31	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか	8.4
32	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか	10.9
33	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか	8.6
34	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか	5.6
35	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	4.4
36	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか	3.5
37	国語の勉強は好きですか	7.5

39	国語の授業の内容はよく分かりますか	4.5
41	国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか	7.9
42	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか	3.4
43	国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか	5.2
44	国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか	10.0
46	算数の勉強は好きですか	3.1
50	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	5.4
51	算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	7.4
53	算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	4.4
54	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	5.5
55	算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	3.8

■【全国の平均より3ポイント以上低いもの】

No.	質問項目	全国との差
57	解答時間は十分でしたか(国語)	-12.1

②中学校【生徒質問紙調査】

■【全国の平均より3ポイント以上高いもの】

No.	質問項目	全国との差
5	自分には、よいところがあると思いますか	5.3
6	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	6.3
7	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	3.5
11	学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか	5.1
19	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり30分以上、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	5.0
20	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館に週に1回以上行きますか	4.3
21	読書は好きですか	5.5
26	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか	3.8
32	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	3.2
34	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか	6.7
35	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか	8.8
36	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか	7.3

39	1, 2年生のときに受けた道徳の授業では, 自分の考えを深めたり, 学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか	6.0
41	国語の勉強は大切だと思いますか	3.1
42	国語の授業の内容はよく分かりますか	4.3
44	国語の授業で学習したことを, 普段の生活の中で, 話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか	4.6
60	1, 2年生のときに受けた授業では, 英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか	4.4
61	1, 2年生のときに受けた授業では, 英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか	4.1
63	1, 2年生のときに受けた授業では, スピーチやプレゼンテーションなど, まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか	6.8
64	1, 2年生のときに受けた授業では, 自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか	5.6
65	1, 2年生のときに受けた授業では, 聞いたり読んだりしたことについて, 生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか	5.2
66	1, 2年生のときに受けた授業では, 聞いたり読んだりしたことについて, その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか	5.0

■【全国の平均より3ポイント以上低いもの】

No.	質問項目	全国との差
30	1, 2年生のときに受けた授業で, コンピュータなどのICTを週に1回以上使用しましたか	-23.3
49	数学の勉強は好きですか	-6.1
51	数学の授業の内容はよく分かりますか	-4.6
59	あなたは将来, 積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか	-3.9
68	解答時間は十分でしたか(数学)	-5.1
69	解答時間は十分でしたか(英語)	-12.7

③児童生徒質問紙調査について

質問紙調査の設問数が今年度小学校は58, 中学校は69。(昨年度は小学校62, 中学校は59) 全国平均と比べて3ポイント以上上回る設問が, 小学校では37, 中学校22。反対に3ポイント以上下回る設問が, 小学校では1, 中学校で6。小学校では, 9割以上の設問で肯定的な回答が全国平均を上回っている。

<小学校>

○小学校では「家で, 自分で計画を立てて勉強していますか」については, 肯定的な回答が全国平均を大きく上回っている。「平日1日当たり1時間以上学習する」児童の割合は, 全国平均より下回っているものの, 昨年度より高くなっている。平日に全く家庭学習をしない小学生の割合は少なくなってきた。

○「先生は, あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」は今年度も全国平均を上回り, 先生と児童の良い関係がうかがえる。

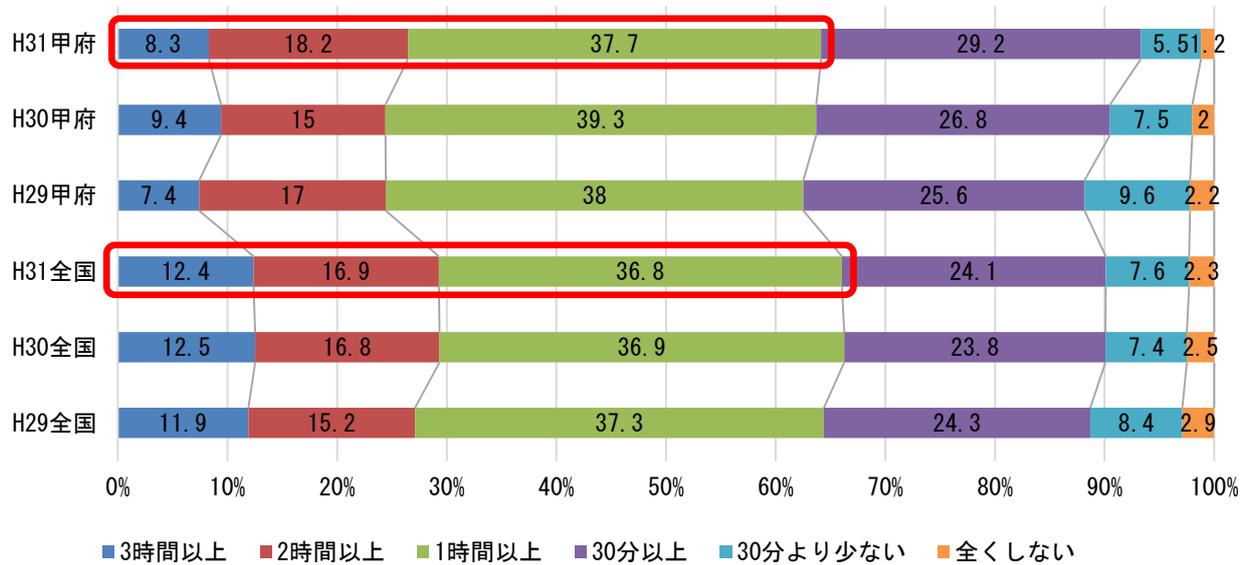
- 読書する時間が長いことや、図書館へ行く回数が多いこと、読書が好きであることについては毎年全国平均を上回っている。
- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか」「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか」「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか」などは全国平均を大きく上回っている。授業の中で話し合い活動を積極的かつ効果的に取り組んでいることがわかる。
- ICTを活用した授業も積極的に行っていることも見て取れる。
- 国語(+7.5%)や算数(+3.1%)の学習を好み、それぞれの教科での学びを普段の生活の中で生かそうとしている。「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」も昨年同様全国平均を大きく上回っている。様々な方法で問題を解いたり、やっていることの意味を理解しながら学んだりする様子が分かる。

<中学校>

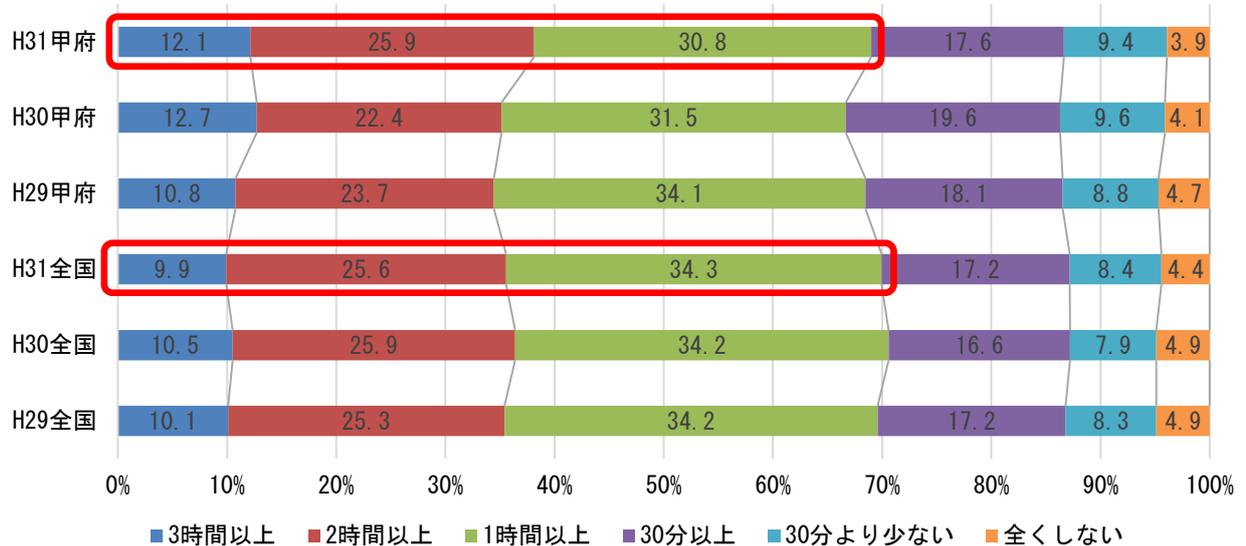
- 「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う(中6.3)」は昨年に引き続き全国平均を大きく上回り、教員のきめ細かな指導や児童生徒と教員との関係の良さがうかがえる。
- 本市の特徴でもある読書指導に関連して、「1日当たり30分以上読書をする」と答えた中学生は全国平均を5.0ポイント上回っている。
- 中学校でも平日に1時間以上家庭学習をする生徒は、全国に比べやや少ない。その割合は昨年度よりも低くなった。平日に全く家庭学習をしない中学生の割合は少なくなっている。学力の定着のためは、授業を振り返ることのできる課題を与えることを継続的に行っていくことが大切である。また、家庭学習をやってこない子、やることが分からない子をどうフォローしていくかも今後必要になってくる。自主学習の量や内容を個に応じて決めたり、やってきたことを必ず褒めたりすることで、少しずつでも達成感を感じさせられるようにし、全くしない児童・生徒を減らすようにしていきたい。
- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか」「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか」「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか」などは全国平均を大きく上回っている。中学校でも授業の中で話し合い活動を積極的かつ効果的に取り組んでいることがわかる。
- 「国語の勉強は好きですか」という設問は全国平均を上回ったものの、「数学が好きですか」「英語が好きですか」という設問は、全国平均を下回っている。

学校の授業以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間を含む）

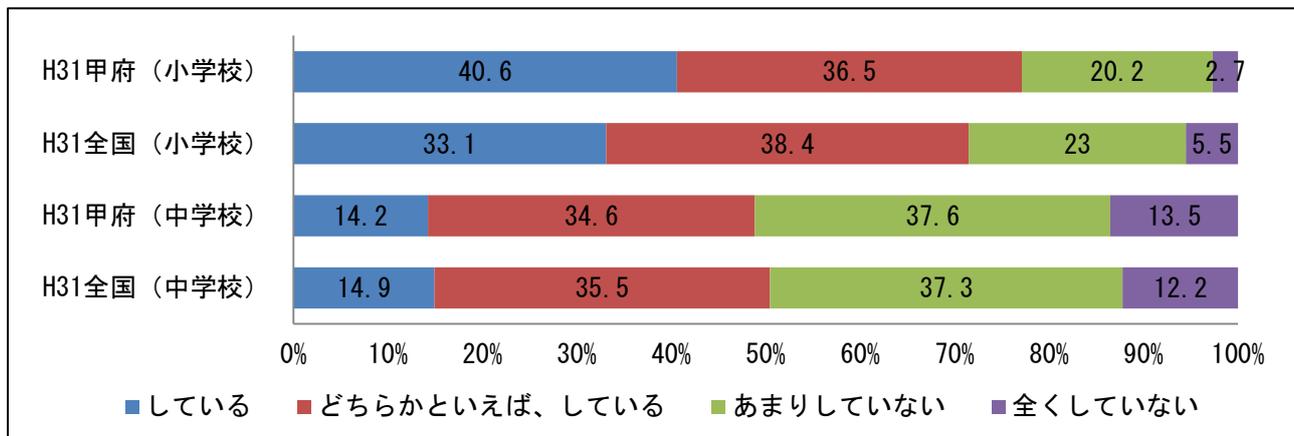
（小学校）



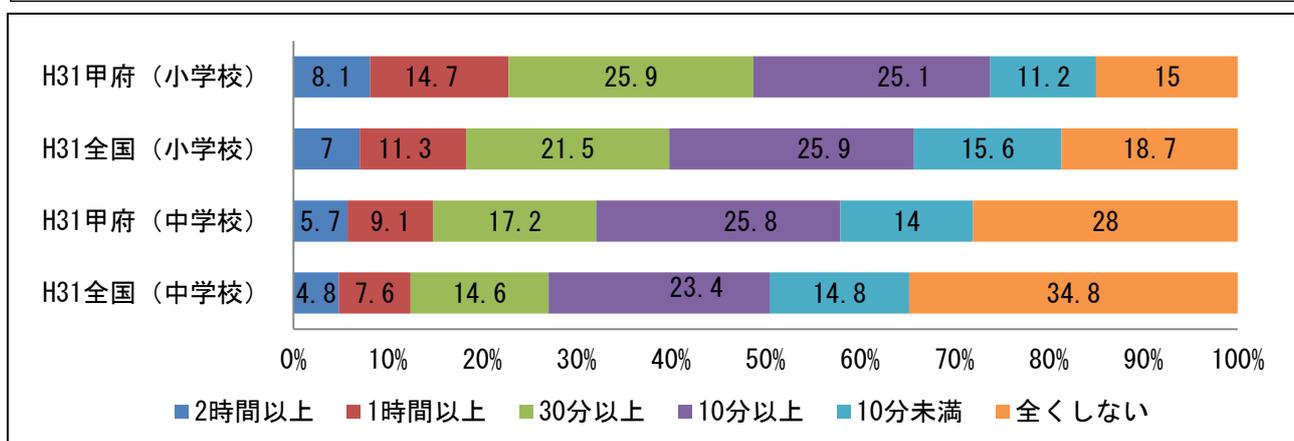
（中学校）



家で、計画を立てて勉強していますか。



学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。



【改善のための方策】

新学習指導要領第1章第1の2の(1)の中にも「家庭との連携を図りながら、児童（生徒）の学習習慣が確立するように配慮すること」とある。家庭学習は、「学んだことを定着させる」という重要な役割があり、確かな学力の向上には欠かせないものである。

○「家庭学習」のあり方について全職員で共通理解を図る

- ① 学校としての家庭学習の方針や目的
- ② 児童生徒の家庭学習の実態と目標
- ③ 課題の内容と量

- ・授業と関わる課題で児童生徒が取り組める内容
- ・課題が明確で取り組むねらいが把握できる（予習・復習・自主課題など）
- ・児童生徒が意欲的に取り組める分量

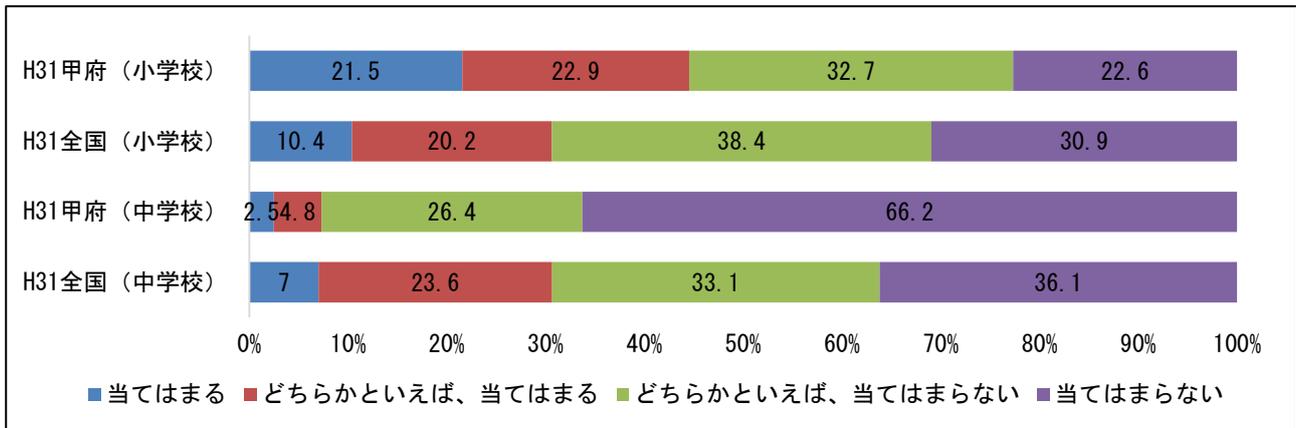
（統一、徹底していくというチームとしての取組が必要。一方で、その児童生徒に合った量や質を考慮していくことも必要）

- ④ 家庭学習の意欲の維持のさせ方
 - ・家庭学習の課題についての適切な評価と指導（やらせっぱなしにしない）
 - ・努力を認める声かけや励まし
- ⑤ 児童生徒への家庭学習の指導

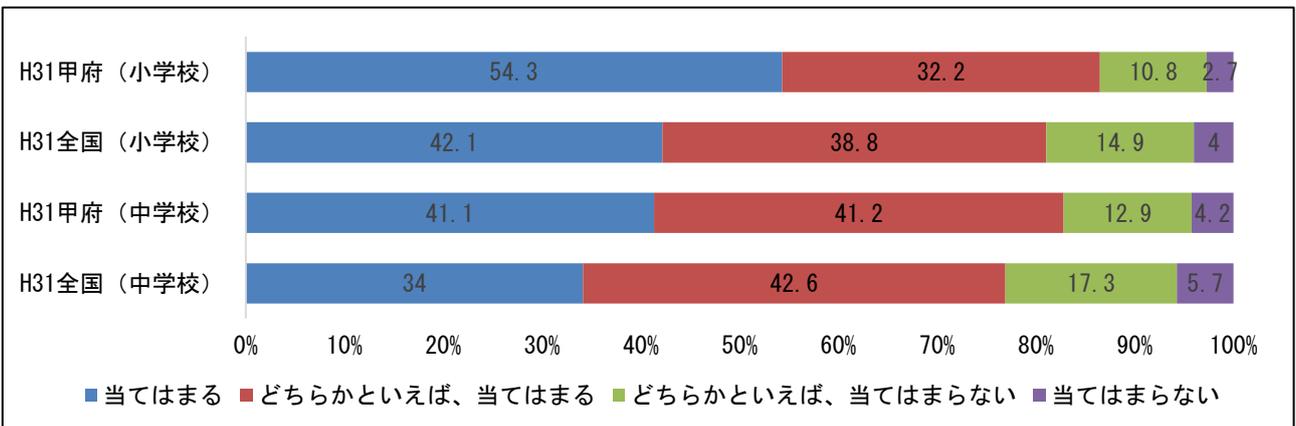
○家庭への協力を依頼する

- ① 家庭学習の具体的内容・方法について「家庭学習の手引き」等で具体的に示す。
- ② 学校が家庭学習について説明したり保護者から家庭学習に関する相談を受けたりする場を設定する。
- ③ 発達の段階に応じて、「家庭学習カード」等で保護者にも家庭学習の点検と励ましをお願いする。
- ④ テレビやビデオ・DVDの視聴時間，ゲーム，携帯電話・スマートフォンの使用時間などについてルール作りを行うことを促す。

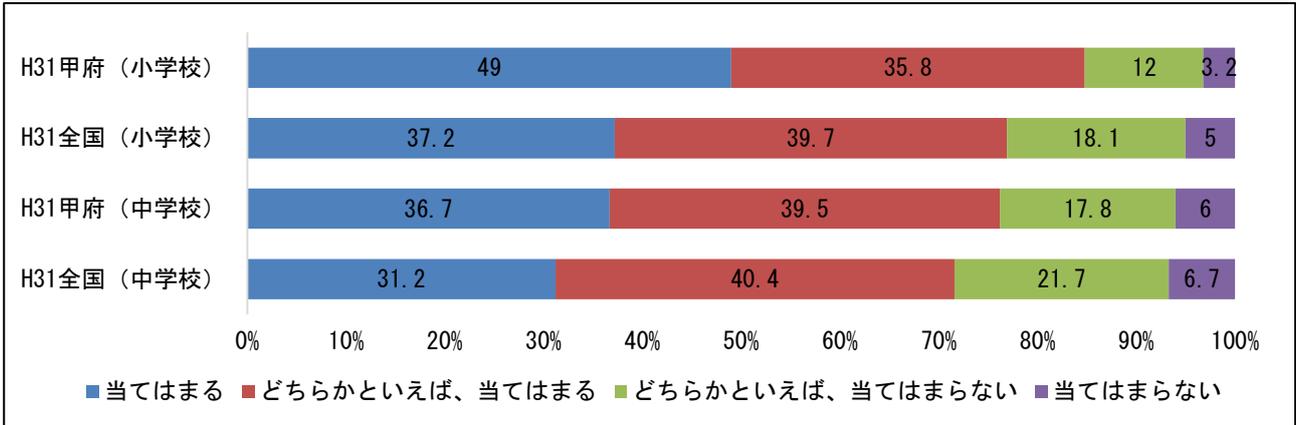
小学校5年生（中学校1，2年）までに受けた授業で，コンピュータなどのICTを活用しましたか。



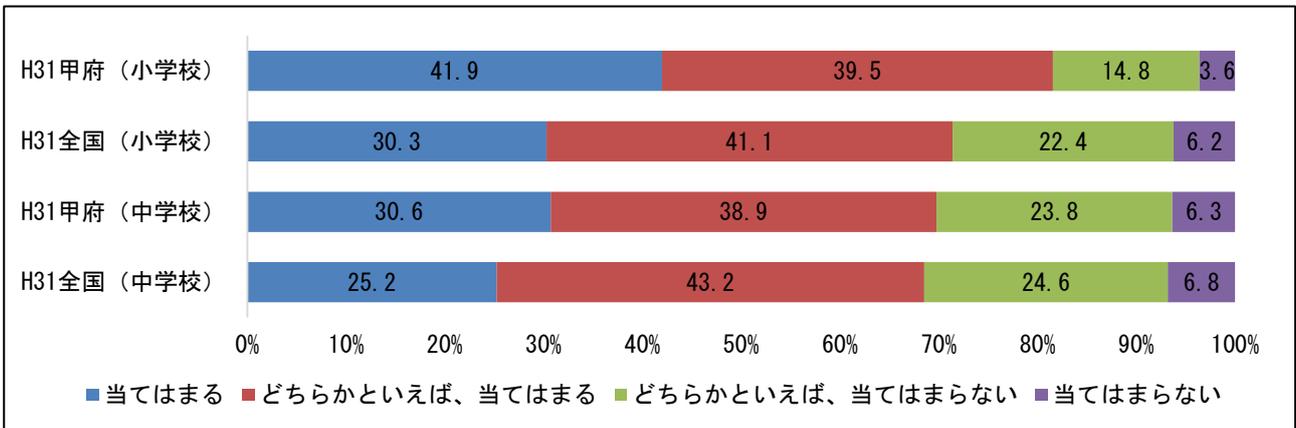
道徳の授業では，自分の考えを深めたり，学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか。



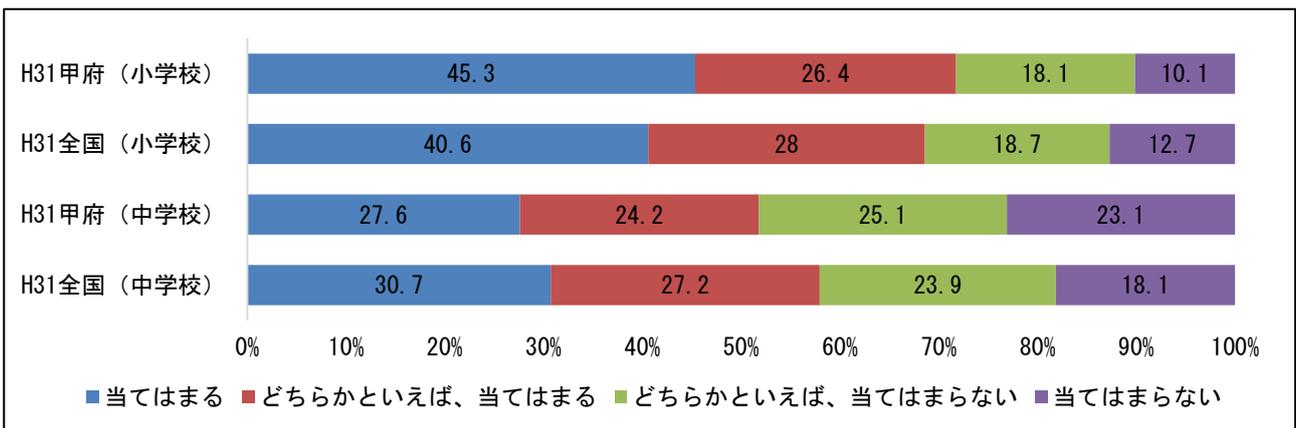
国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか。



国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか。



算数（数学）の勉強は好きですか。



(2) 学校質問紙調査の特徴

1) 家庭学習について

①家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。

(全国平均：全国平均との比較)

[小学校]	「よく行った」	65.4%	(47.0% : +18.4)
[中学校]	「よく行った」	41.7%	(36.9% : +4.8)

②家庭学習の取組として、学校では、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか。

[小学校]	「よく行った」	69.2%	(49.9% : +19.3)
[中学校]	「よく行った」	25.0%	(38.9% : -13.9)

③国語の指導として、前年度までに、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか

[小学校]	「よく行った」	80.8%	(78.4% : +2.4)
[中学校]	「よく行った」	33.3%	(45.2% : -11.9)

2) 学校としての取組体制について

①校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか。

[小学校]	「ほぼ毎日回っている」	61.5%	(71.8% : -10.3)
[中学校]	「ほぼ毎日回っている」	33.3%	(48.8% : -15.5)

②学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか。

[小学校]	「よくしている」	57.7%	(59.2% : -1.5)
[中学校]	「よくしている」	41.7%	(51.4% : -9.7)

3) 小中連携について

①近隣の小学校(中学校)と、研究授業を行うなど、合同して研修を行いましたか。

[小学校]	「よく行った」「どちらかといえば行った」	69.2%	(70.6% : -1.4)
[中学校]	「よく行った」「どちらかといえば行った」	50.0%	(76.2% : -26.2)

<引用・参考資料>

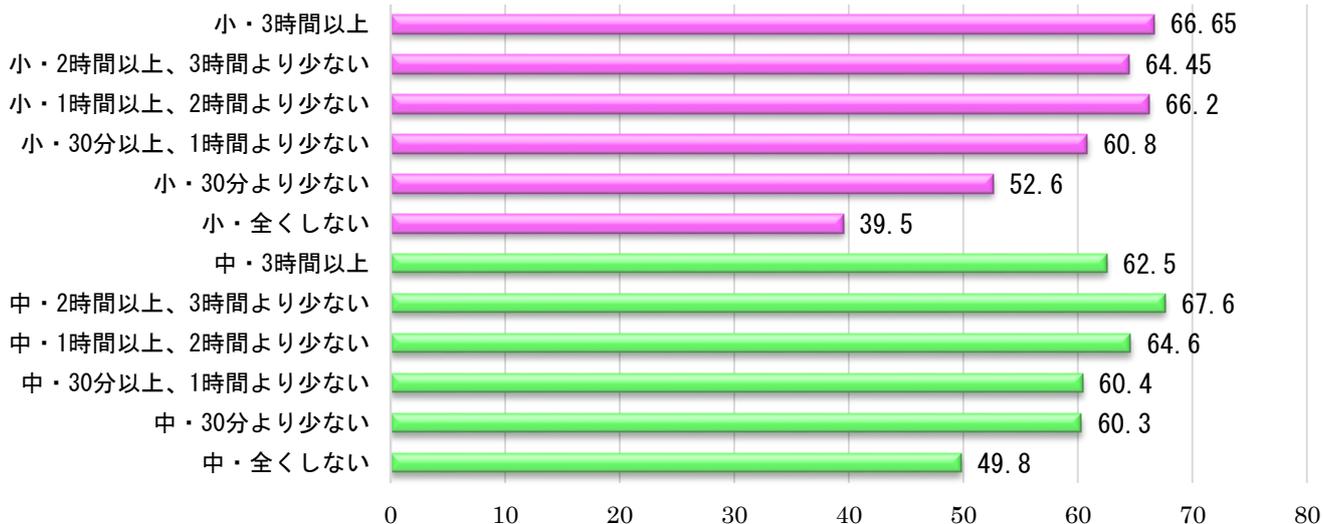
- ・「小学校学習指導要領」(文部科学省) ・「中学校学習指導要領」(文部科学省)
- ・「平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査解説資料」(文部科学省・国立教育政策研究所)
- ・「平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会【説明資料】」(文部科学省・国立教育政策研究所)
- ・「平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査報告書」(文部科学省・国立教育政策研究所)
- ・「平成31年度全国学力学習状況調査 調査問題を授業改善にどのように活用するのか」
(山梨県教育委員会)
- ・「平成30年度甲府市における調査結果のポイント」(甲府市教育委員会)

資料 1 平均正答率と質問紙調査の相関関係

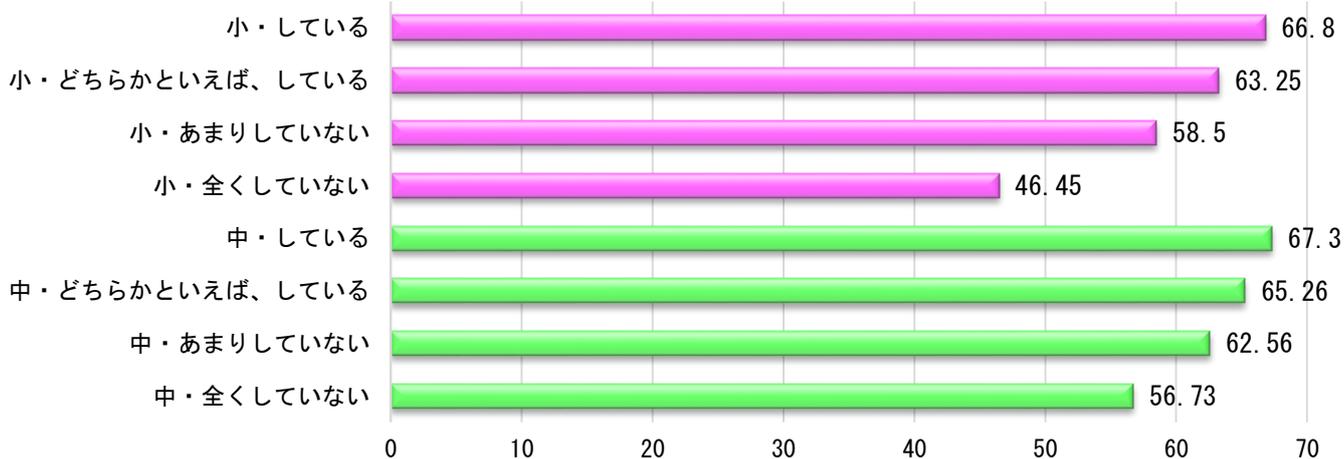
このグラフにおける「合計平均」は、平均正答率の和（小学校は国語と算数の平均正答率の合計を2でわったもの。中学校は国語+数学+英語の平均正答率の合計を3でわったものを示している。棒グラフが長いほど、全国学力・学習状況調査の結果（平均正答率）が高い。

<家庭学習について>

□学校の授業以外、普段（月～金）1日当たりの学習時間と合計平均との相関関係（学習塾、家庭教師を含む）

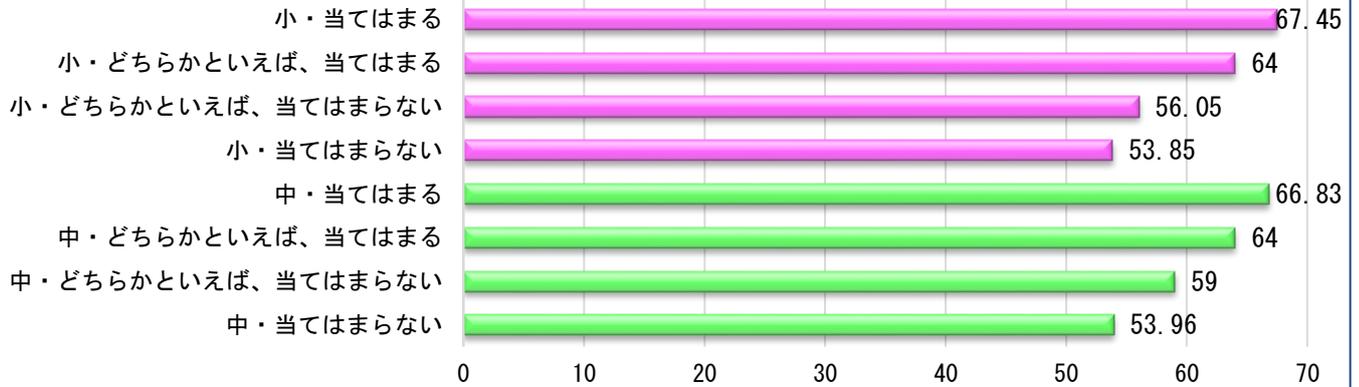


□家で、計画を立てて勉強している児童・生徒と合計平均との相関関係

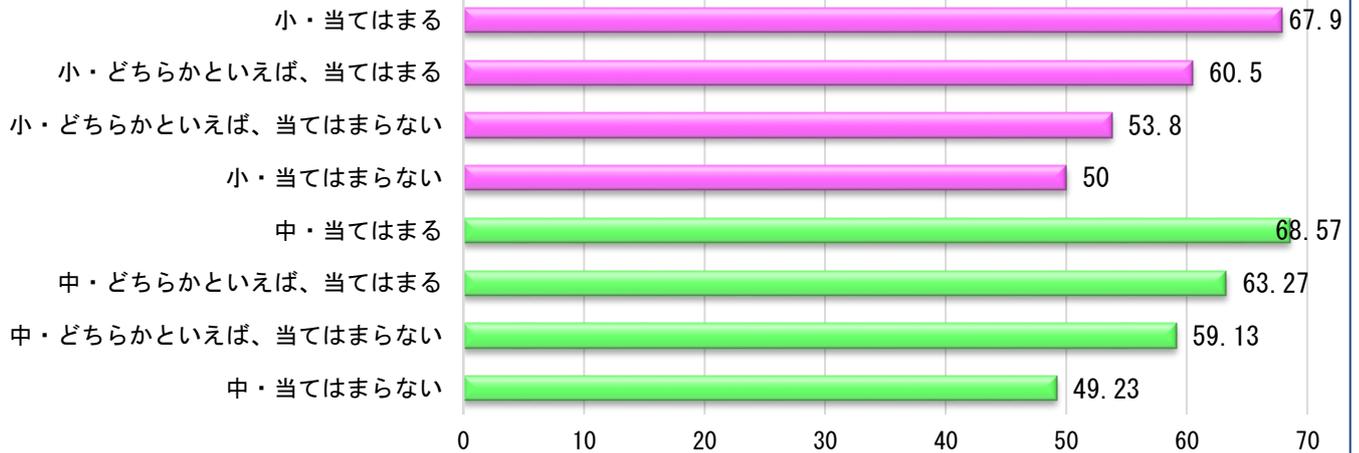


<学習の方法について>

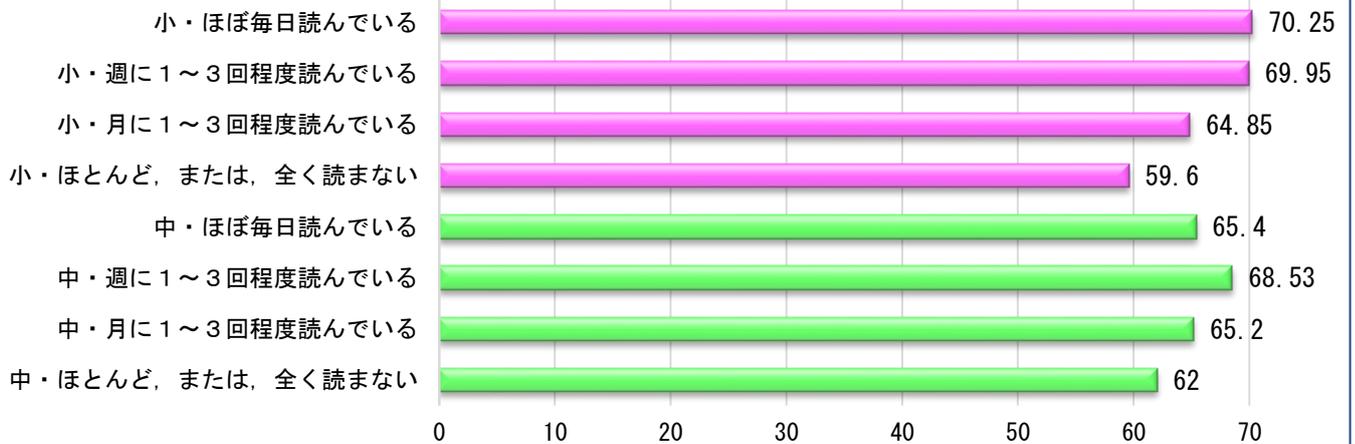
□学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



□授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか。

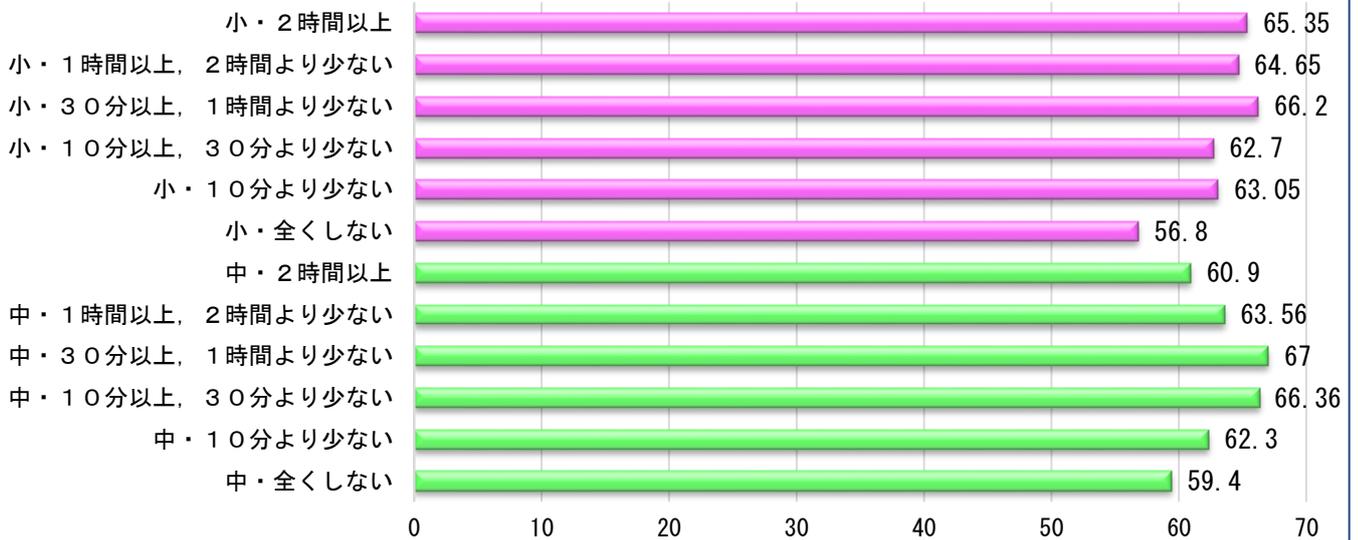


□新聞を読む児童・生徒と合計平均との相関関係



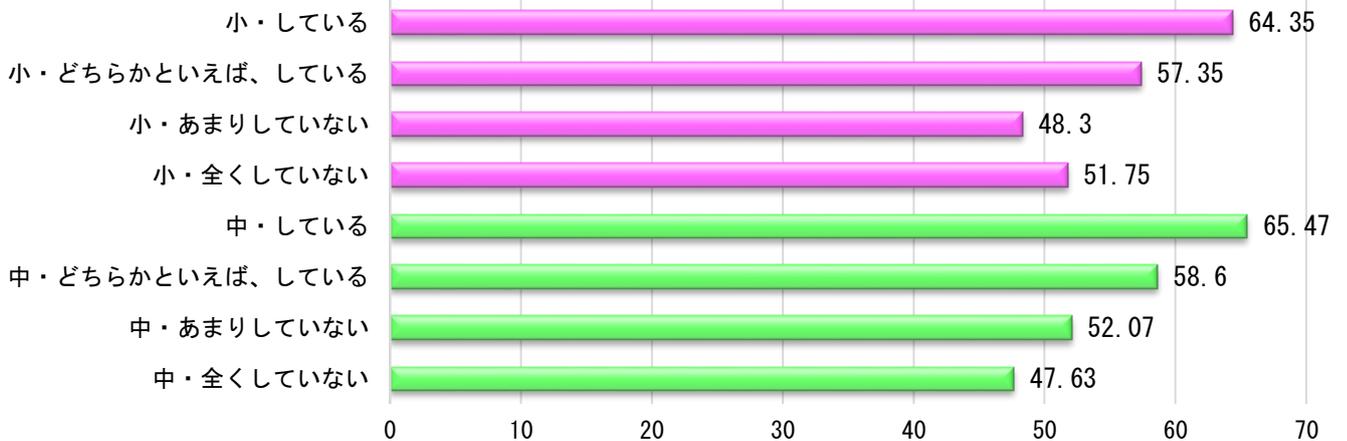
<読書>

□学校の授業以外、普段（月～金）1日当たりの読書時間と合計平均の相関関係（教科書、参考書、漫画や雑誌は除く）

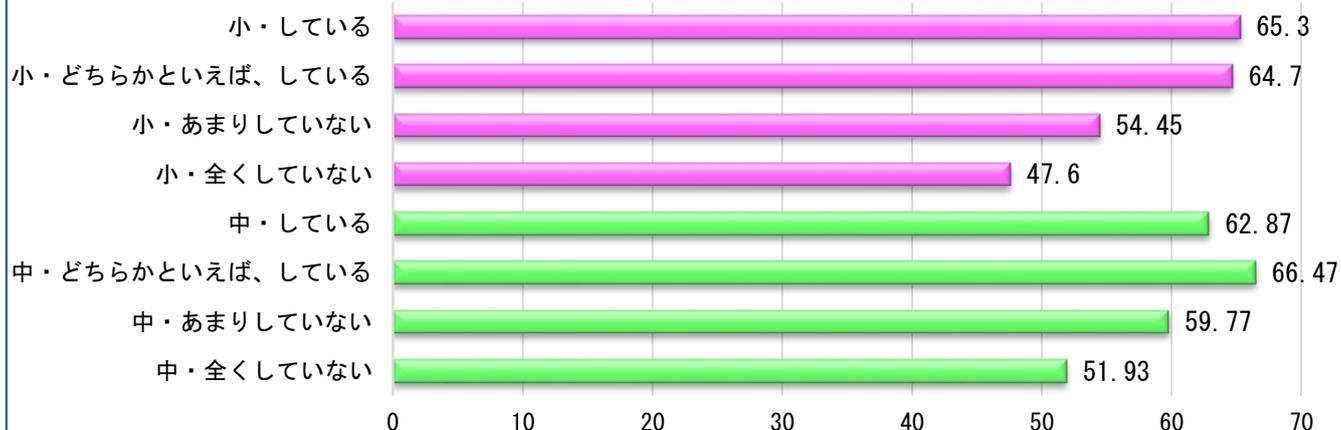


<生活習慣>

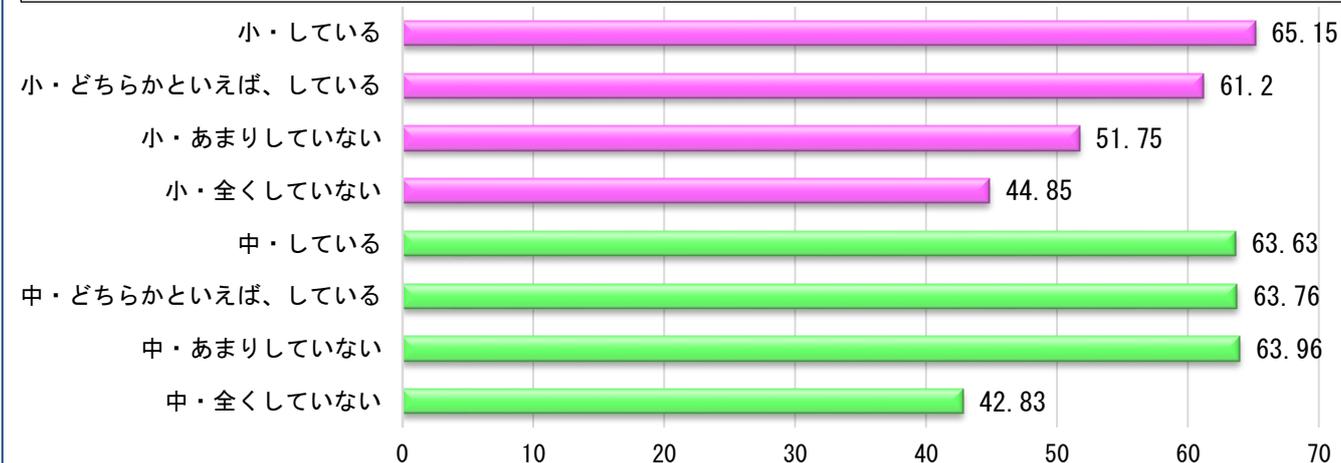
□朝食を毎日食べる児童・生徒と合計平均との相関関係



□毎日、同じくらいの時間に寝る児童・生徒と合計平均との相関関係



□毎日、同じくらいの時間に起きる児童・生徒と合計平均との相関関係



資料2 平成31年度甲府市学校教育指導重点に関わって

平成31年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙から、甲府市学校教育指導重点との関わりについて分析した。

国・県両方を上回っている ◎ 国もしくは県を上回っている ○ 国・県両方を下回っている △

1 重点目標「思い遣る心の育成」に関わる設問の回答状況

将来の夢や目標を持っている (児童生徒質問紙 設問8)	小学校：全国・県を上回る	◎
	中学校：全国を上回る	○
人の役に立つ人間になりたい (児童生徒質問紙 設問16)	小学校：全国・県を上回る	◎
	中学校：全国・県を上回る	△
人が困っているときは、進んで助けていますか (児童生徒質問紙 設問14)	小学校：全国を上回る	○
	中学校：全国を上回る	○

2 重点項目に関わる設問への回答状況

①「生きる力」を育む教育課程の編成

○小中連携の推進

近隣の小・中学校と授業研究等合同研修を実施 (学校質問紙 小設問52 中設問66)	小学校：県を上回る	○
	中学校：全国・県を下回る	△

○キャリア教育の推進

「職場見学・職場体験」 (学校質問紙 小設問54 中設問68)	小学校：全国・県を下回る	△
	中学校：全国・県を上回る	◎

○特別な教育的な支援が必要な児童生徒への指導の充実

特別支援教育の理解に基づく指導の工夫 (学校質問紙 小設問50 中設問64)	小学校：全国・県を上回る	◎
	中学校：全国・県を上回る	◎

②確かな学力の育成

○読書活動の充実

休み時間や休日に学校や地域の図書館の利用 (週1回以上 児童生徒質問紙 小設問20 中設問21)	小学校：全国を上回る	○
	中学校：全国を上回る	○
平日の読書時間 (30分以上) (児童生徒質問紙 設問19)	小学校：全国・県を上回る	◎
	中学校：全国・県を上回る	◎

○規範意識の醸成，生命を尊重する心の育成

学校のきまり・規則を守る (児童生徒質問紙 設問13)	小学校：全国を上回る	○
	中学校：全国を上回る	○
いじめはどんな理由があってもいけない (児童生徒質問紙 設問15)	小学校：全国を上回る・県と同じ	◎
	中学校：全国を上回る・県と同じ	◎

○家庭学習

家庭学習の与え方について，教職員での共通理解 (学校質問紙 小設問59 中設問73)	小学校：全国・県を上回る	◎
	中学校：全国・県を上回る	◎

④健康・体力の向上

○基本的生活習慣の確立

朝食を毎日食べる (児童生徒質問紙 設問1)	小学校：全国を上回る	○
	中学校：全国・県を下回る	△
毎日，同じくらいの時刻に寝る (児童生徒質問紙 設問2)	小学校：国を上回る	○
	中学校：全国・県を下回る	△
毎日，同じくらいの時刻に起きる (児童生徒質問紙 設問3)	小学校：全国・県を上回る	◎
	中学校：全国・県を下回る	△

平成31年度 甲府市学校教育指導重点

目標

甲府の子どもの教育

豊かな感性とたくましい行動力を持ち、互いのよさを認め合いながら、進んで自己の課題に取り組むことのできる、心身共に健康な児童生徒の育成を目指す。

重点目標

- ・「思い遣る心」の育成
- ・「生きる力」を育む教育の展開

「生きる力」を育む教育課程の編成

確かな学力の育成

「思い遣る心」を育む生徒指導の推進

健康・体力の向上

信頼される学校づくりの推進

□ 「思い遣る心」の育成を重視し、「生きる力」を育む、保幼小及び小中連携を意識した教育課程の編成と実施に努める。

□ 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、思考力、判断力、表現力を育み、主体的に学習に取り組む意欲・態度を養い、「生きる力」「思い遣る心」の育成に資する。

□ 学校いじめ防止基本方針に基づくいじめへの対応、不登校・暴力行為等への対応を最優先課題とし、愛と信頼に基づく心のふれあう人間関係をつくり、「思い遣る心」の育成に努める。

□ 「生きる力」の基盤である、健康・体力・安全に関する資質と能力の育成に努める。

□ 「思い遣る心」「生きる力」の基盤となる家庭や地域に開かれた信頼される学校づくりの推進に努める。

1 「生きる力」を育む教育課程の編成と確実な実施に努める。

- ◎ 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、カリキュラム・マネジメントに基づく教育課程の編成と実施
- ・ グローバル化に対応した系統的な外国語教育の推進
- ・ 教育課程に基づく保幼小及び小中連携の推進

1 組織的・計画的に授業改善に取り組み、確かな学力の育成に努める。

- ◎ 「甲府スタイル」による「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくり
- ・ 基礎的・基本的な内容の確実な定着
- ・ 言語活動の充実による思考力・判断力・表現力の育成
- ・ 学びに向かう力や人間性を育てる学習指導
- ◎ 家庭と連携した学習習慣、読書習慣の確立

1 校内指導体制の確立と機能強化に努める。

- ◎ 共通理解と統一した指導方針に基づく、組織的な生徒指導
- ・ 共感的で適切な児童生徒理解、教師と児童生徒との信頼関係に基づく生徒指導

1 自己管理能力の育成と体力向上の基礎の育成をめざした健康・安全指導の推進に努める。

- ・ 基本的生活習慣の確立
- ◎ 日々運動に親しむ習慣の確立と体力の向上を意識した取組の推進
- ・ 食育、がん教育等の健康教育の推進

1 全教職員の共通理解に基づく指導体制の確立に努める。

- ・ 学校関係者評価を含めた学校評価
- ・ 評価に基づく指導体制の一層の工夫改善、充実とその公表

2 将来の生き方をみつめた体系的なキャリア教育の推進に努める。

- ・ 各発達段階に応じた指導計画に基づく指導の充実

2 自己をみつめる力と「思い遣る心」を持った道徳的実践力の育成に努める。

- ・ 全教育活動を通しての一貫性のある道徳教育の推進
- ◎ 新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりと評価の工夫
- ・ 規範意識の醸成、生命を尊重する心の育成

2 教育相談の充実強化に努める。

- ・ 教職員とスクールカウンセラー等との連携による教育相談

3 存在感が実感できる体験的・実践的活動の推進に努める。

- ・ 公共心と「思い遣る心」を基調としたボランティア活動等

2 家庭や地域との一層の連携を図り、信頼される学校づくりに努める。

- ・ 積極的な情報発信と授業の公開
- ◎ 保護者や地域住民が、学校の教育活動に参加する機会の充実

3 特別な教育的支援の必要な児童生徒の教育の推進に努める。

- ・ 家庭及び関係機関との連携による「個別の教育支援計画」の作成・活用

3 楽しく豊かな学校生活を築くための特別活動の充実に努める。

- ・ 望ましい集団活動を通しての自主的実践的態度の育成

4 家庭・地域・関係機関との連携を密にした生徒指導の推進に努める。

- ◎ 児童生徒を中心に据え、家庭、地域、関係機関の役割分担に基づく協働
- ・ 家庭、地域と連携した情報モラル教育

3 安全管理体制の見直しと充実に努める。

- ・ 安全教育の推進と実践的な訓練の実施、家庭、地域、関係機関等との連携による安全確保の徹底
- ・ 個人情報管理の徹底
- ◎ 危機管理マニュアルの改善と充実、危機発生時における迅速な対応

5 お互いの個性を大切に、多様な人々と協働できる資質の育成に努める。

- ・ 個性を認め合い、ともに成長していくことのできる集団づくり、心の居場所づくり